
空模様とそれぞれの物語

ましろ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

空模様とそれぞれの物語

【Nコード】

N4554F

【作者名】

ましろ

【あらすじ】

晴れの日、雨の日、くもりの日。気まぐれな空と、非現実的な物語。

【晴れ】

ここ一ヶ月ほど降り続いていた雨がやみ、久々に青空が広がっていた。

俺はカーテンの隙間から差し込む光を見て、すがすがしい気分で見を開いた。

むくりと起き上がり、分厚いカーテンを開ける。そしてそこに広がっているであろう光景に目を細めながら、外を見る。

想像していたよりも外は明るかった。俺はさっとカーテンを閉め、色つき眼鏡を掛けながら、帽子を被る。

これで安全だ。カーテンを開けながら一人呟いた。外では相変わらずロボット達が家庭に食料などの生活物資を運んでいる。

その光景を有害な光線を防ぐガラスの中から眺めながら、俺はため息をついた。

なぜ昔のやつらは地球がこんなになるまで放置していたんだろう。いくら生活を発展させたところで、こうなってしまうては何もできないではないか。

【雨】

しとしとと、雨が降っている。

久しぶりの雨で、僕はとても気持ち良かった。

お母さんも、これで終わったのねとにこにこしていた。

僕はまだ小さいから、その意味はよく分からなかったけど、お母さんとにこにこしていた。

お父さんは、まだ下の方で忙しそうだった。僕は落ち着いたらこっちに来てね、と言っておいだ。

でも、お父さんは気づいていないみたいだった。本当に忙しそうだな。そんなことを考えていたら、お母さんがちょっと怒ったみたいに、早く行きましょう、と言ったから、

僕はちよつと謝りながら小走りでお母さんのところへ行つた。

何となく、背中がピリピリしたような気がしたけれど、僕はそれをお母さんには言わなかった。

1945/08/06

【くもり】

今日のコーヒーにミルクを入れると、今日の空みたいな色になった。

私は窓際の、お気に入り椅子に浅く腰掛けながら、それに砂糖をひとつ入れてみる。

専用の金のスプーンでゆっくりかき混ぜればすぐに綺麗な模様が出来上がるの。

私はにっこり笑ってカップを覗き込む。するとコーヒーに私の顔が映って、くすりとしちゃった。

そして、窓の外を眺めながら、スプーンをカップの中に入れ、かき混ぜようとした。

その時、空から突然、巨大な金色のスプーンが降ってきた。

(後書き)

SSというものに挑戦してみました。
発想力が欲しいです・・・orz

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4554f/>

空模様とそれぞれの物語

2010年10月11日06時46分発行